

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500069		
法人名	医療法人 かん養生クリニック		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	福岡県北九州市小倉南区姥田若園3丁目4-10		
自己評価作成日	平成22年9月16日	評価結果確定日	平成22年12月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、閑静な住宅街にあり川・田園や公園や落ち着いた環境に恵まれた場所にあります。入居者様へは、無理のない以前と変わらない生活が送れるよう一人一人の希望にあった活動やリハビリを取り入れています。入居者と職員は同じ場所で生活を営む家族と考え、少しでも身近に感じて頂けるよう接する事をモットーにしています。又、隣接の『こもれび』と合同レクレーションを楽しんだり、お互いが行き来出来、気分転換や楽しみを感じて頂けるようにしています。夜間対応として、介護面での緊急対応の充実。医療面では、母体である医療法人かん養生クリニックといつでも連携がとれるよう、24時間連絡体制にて対応しています。週1回の定期的な医師による体調管理も行い医療面からのサポートも充実しており、より良い生活が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った住宅地の中にあり、同法人のグループホーム・デイサービスセンターが隣接して運営されている。ホーム内は、高い天井や天窓から差し込む明るい陽光が、ゆとりあるフロアの広さを更に印象的にし、開放感あふれる空間となっている。また間接照明の採用や木の質感の多用、目に優しい色調の壁紙等、穏やかな空間作りへの配慮は、「こもれび」というホーム名と重っている。「物忘れ外来」が設置されている母体医療法人との充実した連携は、入居者・家族の安心へとつながり、また職員育成や働きやすい職場環境作りへの取り組みも行われている。一人ひとりの入居者の方々の状況が丁寧に記された日々の記録や個別のカンファレンスの内容からは、日常の支援に対する真摯な姿勢が伝わり、表情豊かな入居者の方々との穏やかな暮らしが営まれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同で意見を出し合い作った目標を理念とし、地域密着型サービスの意義とし「地域の方達との交流ふれあいを大切に、訪問しやすいグループホームを目指します」を追加し、職員通用口に掲示し、実践に生かせるよう心がけている。	「こもれびの温かな日の中で……」から始まる理念が開設時に職員間で作られている。天井の高いリビングには明るい日が差し込み、木の質感が多用された開放的な空間の中で、母体医療法人との連携のもと、入居者・職員の穏やかな日常を大切にしたい支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の際、挨拶を積極的にするよう心がけている。又、地域で行われる行事への参加を心がけている。	開設して4年目を迎え、日々の挨拶や地域行事(夏祭り・運動会等)への参加を続ける中で交流を重ねている。行事参加時には、入居者の方々のためにテントが設けられる等、地域の一員として認識されるようになってきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、実際のケアの様子を報告する事で認知症の理解を得るようにしている。又、入所を検討している方の相談を受けたりしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	添付写真にて実際の様子を報告を行い、現状を把握して頂くようつとめている。談話形式ではあるも、貴重な意見と受け止め、職員ミーティングの際伝えサービスの向上につながるよう心掛けている。	運営推進会議は、家族代表・町内会長・地域包括支援センター職員・統括支援センター職員等の参加により開催されている。リビングにて開催されており、入居者が通りすがりに参加することもある。行事見学や消防訓練が行われたり、看護師により健康管理に関する情報発信も行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター主催のグループホーム交流会への参加。グループホーム協議会主催の行政との意見交換(参加予定)を通し、関係を築くようにしている。	地域包括支援センターの主催する小倉南区のグループホーム交流会へ参加しており、情報共有・意見交換の機会がある。グループホーム協議会の取り組みの中でも、行政との意見交換の場面が設定されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法の指定基準における禁止の対象を十分に理解し、ケアに取り組んでいる。玄関に鍵をかける弊害は理解しているも、ホーム前の道路は交通量も多く、危険を伴うため安全面を優先し施錠しているが、入居者の希望により職員とともに外出している。	グループホーム協議会主催の身体拘束に関する研修に参加し、伝達により職員全員の意識を高めるよう取り組んでいる。周辺環境の厳しさから現状としては安全面を最優先し、玄関は施錠されている。	施錠については、運営推進会議等において、家族・地域・行政等の関係者とともに、現状の把握、再確認の機会を持ちながら、共有認識を図って欲しい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティング時に学ぶ機会を設けている。又情報交換する事で再度認識を深めている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用している方がおり、研修も機会を設け職員の理解を深めている。	研修計画の中には権利擁護に関する制度についてが盛り込まれ、継続的に職員の理解を深めるよう取り組んでいる。現在、成年後見制度を活用している方もおり、資料の整備、及び情報提供を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、十分時間をかけ納得して頂けるよう努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・御家族が意見・要望を言いやすいような良好な関係作り、及び雰囲気を作るよう心掛けている。又、入居時に公的な苦情相談窓口やご意見箱の利用について説明している。	家族の来訪も多く、コミュニケーションの機会を大切にしている。重度化に向けてのアンケート調査を実施し、今後の事業所としての方向性を検討する等、入居者・家族の意見を体制作りで反映している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2月に1回法人で行われる責任者会議にて、職員の意見等管理者より提案する機会を設けている。又、年1回アンケート形式で個人の意見を言える機会を設けている。	毎月行われている職員会議にて、職員意見の吸上げに努めている。また、その意見を法人全体の会議にて検討する機会も設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にスキルアップ、目標を持ち外部研修の希望には、勤務の調整を行っている。又、福利厚生の一部とし費用についても支援している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって、年齢・性別等特に制限は設けていない。個々の能力ややる気を重視している。職員がお互いを尊重し、得意分野が業務に活かされ、充実した気持ちで勤務出来るよう心掛けている。	職員の採用にあたっては、人柄や資質などを重視しており、年齢や性別、資格等を理由とする制限は行っていない。入居者との馴染みの関係性にも十分に配慮しながら、スキルアップにつながる法人内の異動希望にも柔軟に検討している。資格取得に向けた支援を行い、モチベーションの確保に向けた取り組みも行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中に「お一人お一人の意見を最大限に尊重し尊厳を守ります」と掲げている。理念の共有・実践により人権教育にもつなげていくよう取り組んでいる。	高齢者虐待防止・身体拘束・プライバシー保護等、人権教育につながる内部研修の機会が確保されている。	

福岡県 グループホーム こもれば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時の研修については、経験等に合わせ期間や内容を変えている。内部研修として毎月勉強会を実地している。外部研修へは参加しやすいよう勤務時間等配慮し、費用についても支援している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域包括支援センター主催のグループホームの集いへの参加、又、事業所間情報交換会へ参加し、向上するよう取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに、御本人さんとお会いし、要望や不安等情報収集を行うようにしている。お一人お一人に合わせ柔軟な支援に努め、安心して入居できるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに、御家族様より要望や不安等情報収集を行いようにしている。ご本人の前で話づらい内容は、日をあらためるか、電話で対応し、安心して入居が出来るよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の状況や現状のサービス内容・困っていることの情報収集を行い、御家族の了解を得て、居宅・医療関係者等の意見を含め対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、コミュニケーションの機会を大切に、洗濯・料理・食事を共にし、趣味や特技を一緒に楽しんだり、教わる事で支え合う関係につながるよう努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中での出来事等の報告を行い、ご本人の為にどうしたら良いのか、相談や意向を伺うよう努めている。又、行事等の参加を呼びかけ共に支えていく関係につながるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、出来る限り馴染みの物を持って来て頂いたり、馴染みの方が気軽に来所して頂けるような場の提供できるよう努めている。	家族の来訪も多く協力を得ながら、馴染みの美容院の利用や、神社へのお参りに出かけている。また、生まれ育った場所につながる歌を歌ったり、誕生日にはいつも買い物に行っていた市場等に出かけたりと、個別の支援を行っている。	

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	日頃の入居者の表情や関わりあいから、関係性の把握に努めている。必要に応じ、職員が会話の橋渡しをする等し、良い関係が築けるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も継続な関わりが保てるよう努めている。退所先へ面会・お見舞いへ行くことや、現状の報告をしてくださる事もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、御本人・御家族の思いや意向が、ホームでの暮らしの中で反映されるよう、日々の会話や行動から把握するよう努めている。	各担当職員によるセンター方式を活用したアセスメントが実施されている。また、支援経過記録には、日々の様子や言葉が丁寧に記録され、毎日のミーティングにおいて、職員間での共有を図るとともに、意向の把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、事前に情報収集を行っている。入居後も日頃の会話の中から生活歴・生活環境等の把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や心身の状況の把握に努め、変化が見られた時は、申し送り、記録により職員全員で把握できるようにしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の意向を大切に、ケアマネジメントを行い現状に即した介護計画になるよう努め、計画通り実行されているか、職員全員が把握している。	本人・家族の意向の把握に努めながら、職員間の意見を集約し、介護計画を作成している。日々の記録、毎月のモニタリング実施により、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子について、個別のケース記録に記入し、変化については、日誌にも記入し状況の把握・共有が出来るよう努めている。必要であれば、介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	筋力維持のため、法人内他事業所よりリハビリの対応を仰いでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等にボランティアの方に来ていただいたり、消防隊の指導のもと消防訓練も実施している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族の希望を大切にながら、協力医療機関も含め適切な医療が受けられるよう支援している。母体である「かん養生クリニック」より、定期的な診察を行っている。	本人・家族の意向によるかかりつけ医を尊重している。認知症専門医でもある母体医療法人より定期的な往診があり、他科受信・往診も含め、家族の協力も得ながら、適切な医療活用となるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の「かん養生クリニック」より看護師が定期的に来所し、相談・指導を仰いでいる。又、健康管理や状況把握を行い、医療活用を支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、馴染みの物を病室にて利用して頂き、少しでも安心して過ごせるよう配慮している。又、病院関係者との情報交換を密にし、ホームの受け入れ態勢の報告をし、早期退院が出来るように努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を示し、家族の同意を得ている。現在事例は無いが、家族の希望の把握の為にアンケート調査を行っている。事業所として出来る事・出来ない事を把握し、主治医、御家族との話し合いにて方針を共有していく。	アンケート調査等による現状での本人・家族の意向の把握とともに、個別の既往歴等によるリスクを想定した上で、一人ひとりに応じた指針が作成されている。状況の変化に応じて、家族・医療関係者との話し合いを重ね、方針を共有していく方針である。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、すぐに確認出来る所に貼ってある。又、緊急救命の研修を行い日頃から意識がもてるようにしている。		

福岡県 グループホーム こまれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回防災訓練を地域の方の参加も働きかけ実施。地震を想定した訓練や夜間を想定した訓練も行っている。	昼夜想定や地震を想定した訓練を、年2回、入居者全員の参加にて実施している。運営推進会議の開催に合わせたこともあり、会議メンバーや家族の参加を得ながら、体制作りに取り組んでいる。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権を尊重し、プライバシーの保護には十分配慮し、状況に応じた声掛けや対応に努めている。	特に排泄時や入浴時の対応については、一人ひとりの尊厳を損ねない対応となるよう留意している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人に合わせた声掛け、対応を心掛け、意思を尊重できるように努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日のスケジュールの設定はしてあるものの、一人一人のペースに合わせて、可能な限り希望にそえるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着られる洋服を御本人の希望を優先し、一緒に選んだり、定期的に美容師さんに来てもらいパーマや毛染めも希望に添えるよう支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、味付け、盛り付け、配膳、後片付け等個々に合わせ、お手伝いして頂いている。入居者と職員は同じテーブルで食事をし、会話も弾み楽しみながら食事をしている。	職員も共に同じテーブルを囲み、一人ひとりのペースを尊重しながら、楽しく食事している風景があった。調理準備や後片付けに自発的な参加があり、個々の力を発揮する場面もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量を記録し、管理を行っている。こまめな水分摂取を促し脱水についても配慮している。又嚥下障害のある方には、とろみを付け提供したり、食事の形態を変え提供している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて口腔ケアを行っている。又、必要に応じて、協力歯科の往診を依頼している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターン・間隔の把握に努め、定期的に声掛け・誘導を行いトイレ内環境を整備し、自立した排泄が出来るように努めている。	水分・排泄チェック表により、個別のパターンの把握に努めている。カンファレンスの中でも、個別の状況について検討が行われており、排泄の自立へ向けた支援につなげている。入居時におむつを使用していた方も、日々の取り組みの成果として現状は必要がなくなっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、食物繊維や乳酸菌を多く含む食材の提供を心掛けている。又、散歩や体操の参加を促し自然排便を心掛けている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴では有るも、可能な限り状況や希望に合わせて柔軟に対応している。	隔日での入浴日に設定はあるが、希望や状況にはできる限り柔軟に対応するよう努めている。個別の配慮や工夫により、現在は入浴を拒否される方はいない。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操・散歩・レクリエーション・家事の手伝い等、無理にならないよう日中活動をして頂き、夜間の安眠つなげるように努めている。又、生活習慣や体調により、休息して頂くよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的、副作用等、いつでも確認が出来るようにしている。薬の変更があった時は、業務日誌に記入し変化の確認に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に合わせ、家事のお手伝いをして頂き、生活歴や趣味を生かせる生活・レクリエーションにて気分転換を図り、楽しみを感じて頂けるよう支援している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>その日の希望にそって、戸外に出かける事は出来ないも、可能な限り、個人の希望に添えるよう、誕生日の日に本人の希望を把握し、外出支援を行うようにしている。</p>	<p>誕生日には個別支援として、馴染みの場所への外出を企画する等の取り組みが始まっている。ホーム周辺の道路は交通量が多く、歩道の設置もないため苦慮している様子があがるが、家族の協力も得ながら、外出の機会の確保に取り組んでいる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御家族了解のもと、所持されておられます。お買い物の際は、お預かり金よりご本人にお支払いして頂く等の支援をしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望される方は、ホームの電話を利用して頂き、御家族と連絡を取って頂いている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには、天窓から自然の光が差し込み、窓からは、山の風景が見られ、畑で作った季節の野菜、庭に咲いた花をテーブルに飾り、自然の季節感を採り入れ、居心地良く過ごして頂けるようにしている。</p>	<p>ゆとりある広さを持つ共用空間は天井も高く、明るく開放的な作りとなっている。ダイニングテーブルやソファ、畳スペース等、それぞれの方のくつろぎのスペースが確保されている。木の質感や間接照明、内装色等、穏やかな空間となるよう配慮されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファセットを設置、畳のスペースも有り、窓辺にもソファを設置しており、好きなところで過ごせるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ、使い慣れたものを持ってきて頂くよう御家族にお願いしている。家具の配置等、ご本人・御家族と相談しながら、居心地良く過ごせるように努めている。</p>	<p>それぞれの居室は間取りが異なり、希望や状況により選択されている。鏡台等、大切な家具が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーとなっており、歩行器・車椅子の方も安全に生活出来るようになっている。又、共同のトイレには、可動式の手すりを設置し、居室トイレには、手すりの必要な方には追加し自立した生活が送れるようにしている。</p>		